

(3) 学校における竹島教育

島根県内の小・中学校における「竹島に関する学習」の実施状況 ～竹島学習副教材の制作・配付とその成果～

曾田和彦

① はじめに

1) 学校における竹島教育に係る島根県の動向

島根県は、国への重点要望の一つとして、「国民の領土に対する正しい認識を深めるため、学校教育において、竹島問題を積極的に扱うよう指導を強めること」を求めてきた。また、文部科学省に対しては学習指導要領への竹島記載に関して要望を行い、併せて各教科書会社に対しては竹島記載に関する要望を行ってきた。

また、島根県教育委員会ではこれまでも島根の教育で大切にしたいことの一つとしてふるさと教育の推進を掲げ、その中で竹島について扱うこととしてきた。小学校においては『領土に対する正しい認識を深める「竹島」に関する学習の実施』を、中学校においては『日韓両国の主張の違いについて考える「竹島」に関する学習の実施』を重点としてきたところである。

2) 竹島教育に係る文部科学省の動向

平成20年9月に文部科学省が作成した中学校学習指導要領解説社会編には「我が国と韓国との間に竹島をめぐる主張に相違があることなどにも触れ、北方領土と同様に我が国の領土・領域についての理解を深めさせる」と記載され、平成24年度から全面実施される新しい教育課程において中学校における竹島の学習が進められることとなった。

また、平成21年度の教科書検定の結果、小学校第5学年の社会科の教科書5種に竹島についての記載がなされ、平成23年度から全国の小学校で使用される教科書で竹島が扱われることとなった。

3) 竹島学習副教材の制作・配付

このような動きの中、平成21年5月に、島根県内における竹島に関する学習を一層推進するため、島根県総務部総務課、島根県教育委員会、竹島・北方領土返還要求運動島根県民会議が竹島学習副教材を制作し、県内の小・中学校に配付した。

本稿では、この竹島学習副教材の活用状況を中心に、県内の小・中学校における竹島に関する学習の状況を示すとともに、竹島学習副教材制作・配付の成果について考察する。

② 竹島学習副教材の内容

竹島学習副教材は、小・中学校における竹島学習DVDとCDからなる構成となっている。島根県内の授業での使用を想定したDVDには小学校第5学年用、中学校第1学年用、中学校第2学年用の3種類の映像資料が収録されており、竹島の位置や領有権問題の歴史、漁業問題などがナレーション付きで紹介されている。CDには、DVDを活用した授業で児童生徒が使うワークシート、学習指導案例（資料1～4参照）、隠岐の島町教育委員会発行「ふるさと教育副教材」の竹島に関する記述部分が収められている。

竹島学習副教材 DVD

1. 小学校編... 4分25秒
 - I. オープニング
 - II. 島の位置
 - III. 島の様子
 - IV. 島に行くことができない理由
 - V. エンディング
2. 中学校 1年生編... 7分5秒
 - 竹島の位置や様子
 - 竹島領土問題に関わる出来事
3. 中学校 2年生編... 4分48秒
 - I. 漁場としての特徴
 - II. 暫定水域の設定と問題点

竹島学習副教材 資料編 CD

1. 小学校第5学年社会科学習指導案
小学校第5学年ワークシート
2. 中学校第1学年社会科学習指導案
中学校第1学年ワークシート
写真等資料
3. 中学校第2学年社会科学習指導案
中学校第2学年ワークシート
漁業等に関する資料
4. 教材研究用資料

◎ 「竹島に関する学習」実施状況の変化

1) 「竹島に関する学習」実施率

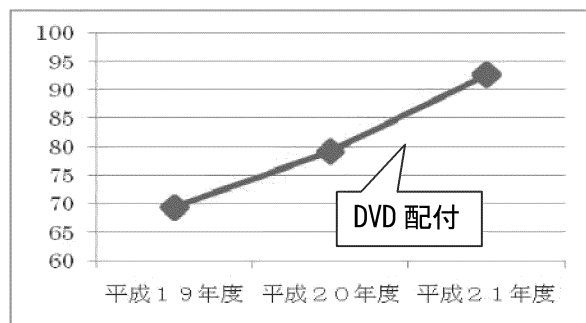
教育庁義務教育課が実施している県内の小・中学校における「竹島に関する学習」の実施状況調査の結果は、次のとおりである。

平成21年度島根県内で「竹島に関する学習」を実施した学校

小学校 226校 / 244校 (実施率92.6%)

3年間の実施率の推移

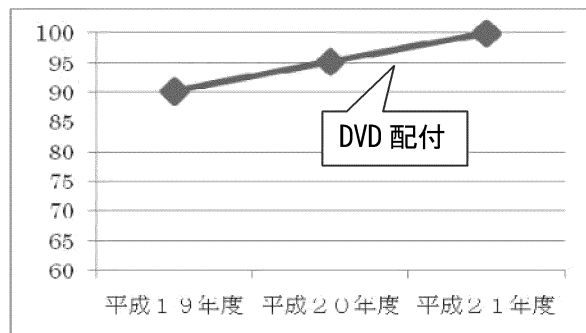
平成19年度	69.4%
平成20年度	79.1%
平成21年度	92.6%



中学校 102校 / 102校 (実施率100.0%)

3年間の実施率の推移

平成19年度	90.2%
平成20年度	95.2%
平成21年度	100.0%



2) 小学校の実施状況

小学校244校（1校は分校を本校と併せて回答してある）の内、平成21年度に竹島に関する学習を実施した学校は226校で、実施率は92.6%と過去最高であった。竹島学習副教材を配付する前の平成20年度と比較すると、実施率が大幅に増加している。

第5学年社会科「わたしたちの国土」の単元において、竹島に関する学習を実施した学校が最も多かった。複式学級を有する学校は、隔年でこの単元を学習するため、実質的に県内のすべての小学校で竹島に関する学習が実施されている。

第5学年社会科で扱わない学校でも、他学年や総合的な学習の時間等で竹島に関する学習を実施する学校が見られた。

第5学年社会科以外で行われた竹島に関する学習の例

- 第6学年の社会科の歴史的内容や政治的内容で実施する。
- 第6学年の総合的な学習の時間に実施する。
- 第4学年の島根県の学習で実施する。
- 「竹島の日」にあわせて実施する。
- 授業時間以外にも朝礼の時間を活用して、担任が竹島について話をする。

3) 中学校の実施状況

中学校では102校のすべてで竹島に関する学習が行われた。

第1学年社会科地理的分野「日本の地域構成」の単元において実施した学校が最も多かった。

第1学年社会科地理的分野以外で行われた竹島に関する学習の例

- 第1学年地理的分野の「島根県を調べる」の単元で実施する。
- 第2学年地理的分野の「日本の国土と自然」の単元で漁業に関連して実施する。
- 第2学年歴史的分野の「現代の日本と世界」の単元で実施する。
- 第3学年の公民的分野「国際社会と世界平和」の単元で実施する。
- 「竹島の日」に全校朝礼で竹島学習副教材DVDを視聴し、社会科教員が竹島について説明する。

4) 考察

今回の調査で、小学校、中学校とも実施率が過去最高となった背景には、中学校学習指導要領解説社会編に竹島に関する記載が行われたことや、平成21年5月に、竹島学習副教材を県内の全小・中学校に配付したこと、平成21年度に県内の教員に行った新教育課程説明会の社会科部会や、管理職研修における竹島学習副教材DVDの内容や使用方法の説明等により、教員の竹島に関する学習への意識が高まったためと考えられる。

また、各学校が学校や地域の実態に応じて、実施教科や単元等を工夫している様子が明らかになった。これも、竹島に関する学習の重要性が認識されてきた結果だと考えられる。今後は、新学習指導要領に基づいた学習が進められることは言うまでもないが、創意工夫を凝らした各学校の実践の普及に努めることも求められる。

④ 竹島学習副教材DVDの活用状況

1) 小学校の活用状況

ア DVD及び学習指導案の活用率

☆ 第5学年でDVDを活用した学校 184校 (81.4%)

※ 実施校に占める副教材を活用した学校の割合

そのうち、指導案例にしたがって第5学年の授業を行った学校 135校 (73.4%)

※ 副教材を活用した学校に占める指導案例にしたがって行った学校の割合

☆ 第5学年以外でDVDを活用した学校 49校 (21.7%)

※ 実施校に占める副教材を活用した学校の割合

イ 「竹島学習副教材DVD」を活用した際の児童の反応や感想、授業者の感想

- ・ 地図や実際の竹島の映像など視覚的に様子や状況が捉えやすく、児童も興味関心をもって学習に取り組んでいた。島根県だけではなく日本の問題として全国で取り上げてほしいと思う。
- ・ 隠岐は竹島に近く、昔から関わりのある地域であるが、知識のない児童が多かった。児童は関わりが深い島であったことや、現在の状況に驚きを感じたようであった。
- ・ 竹島が日本人の生活の糧としていた漁場であるということが分かり、早く自由に行ける場所となるようになって欲しいという感想を、多くの児童がもっていた。指導案例に従って授業を行うことで、一律に目標が達成できるようになる。児童の実態と合うのか学習前は心配したが、DVDの利用による効果もあり、本校の5年生の児童にも合った内容でよかった。
- ・ 子どもたちは韓国に対して、親日的なプラスのイメージをもっていた。しかし、DVDでの学習後は竹島を占拠しているという側面があることを知り、マイナスのイメージをもったり、驚いたりしている子が多かった。授業者もこのような子どもの反応は予想外であり、これほど韓国に対して悪い感想をもつとは思わなかった。
- ・ 竹島問題と同時に日韓の友好的な活動も同時に教えていく必要を感じた。
- ・ 映像等があり興味深そうに視聴していたが、指導案の内容どおりに行くと、児童の反応があまりよくなかった。事前にある程度の予備知識を入れておいたほうがよかったかとも思った。
- ・ 韓国の小学校では、この竹島問題をどのように学習しているか知りたい。

2) 中学校の活用状況

ア DVD及び学習指導案の活用率

☆ 第1学年で活用した学校 62校 (60.8%)

※ 実施校に占める副教材を活用した学校の割合

指導案例にしたがって第1学年の授業を行った学校 35校 (56.5%)

※ 副教材を活用した学校に占める指導案例にしたがって行った学校の割合

☆ 第2年生で活用した学校 31校 (30.4%)

※ 実施校に占めるDVDを活用した学校の割合

指導案例にしたがって第2学年の授業を行った学校 13校 (41.9%)

※ 副教材を活用した学校に占める指導案例にしたがって行った学校の割合

☆ 第3学年で活用した学校 39校 (38.2%)

※ 実施校に占める副教材を活用した学校の割合

中学校で「竹島学習副教材」を活用した延べ学校数 132校

イ 「竹島学習副教材DVD」を活用した際の生徒の反応や感想、授業者の感想

- ・生徒は竹島の位置や、歴史的背景について理解できたと言っていた。第2学年は小学生用の内容も視聴させたが、分かり易いと好評だった。
- ・竹島は日本の領土であり、島根県の島であるといっても、なかなか実感がもてないのが現状である。その点、映像で竹島のようなすが見られたり、かつてここで漁をしていた漁業関係者の話が聞けるのは良いと思う。しかし、解説の語句は第1学年には難しく感じられる。
- ・内容としてはおおむね好評であった。第1学年の地理的分野よりも第3学年の公民的分野の学習で取り扱ったほうが、生徒の発達段階からして効果的であると感じている。今後、検討したい。また、山間部の生徒と沿岸部の生徒とでは、意識の違いがあることを、前任校と比べてみて、改めて感じている。
- ・大変意欲的に取り組み、感想文を書くこともできた。今後の竹島問題解決への道りを自分たちの視点で考えることができた。
- ・授業の進め方も例示してあり、指導する側とすればやり易いものであった。また、生徒も視聴覚資料を通しての学習に取り組みやすさを感じているとともに、竹島が日本の領土であるという認識を深め、より良い方策を用いて、領土問題の解決をすべきであるという感想が見られた。
- ・DVDを使用することで生徒は興味をもち、よくわかると感じた。指導については、指導案例を基本にしたが、自分でやりやすいようアレンジして指導した。
- ・日韓の協定等について歴史的背景がよく理解できた。領土問題を解決しながら、友好関係も深めていくことの難しさを感じた。

3) 考察

竹島学習副教材配付の際、「児童生徒や地域の実態等に応じた教材を使って学習しても良い」として、副教材の活用を義務づけてはいなかったものの、活用率は想定より低かった。

平成22年1月の調査の段階で、年度途中で配付された副教材の活用について「指導計画の中にDVD活用が位置付けられていない」や「時間がない」、「活用のための校内研修が充分でない」等の回答があった。今年度は年度当初から竹島学習副教材の活用を計画に位置付けることが可能であることから、昨年度より活用率の上昇が見込めるものと考えられる。

竹島副教材を活用した学校から寄せられた感想で最も多かった内容は、「映像によって子どもたちの興味関心が高まった」「竹島のイメージがつかめた」というものであった。指導者にとってもDVDの映像資料とセットになった学習指導案例は参考になったというものが多かった。これまで竹島に関する映像の教材が十分でなかったこともあり、映像を中心とする竹島学習副教材が学習に極めて有効であることが明らかとなったと言える。今後は、この副教材の活用率の向上に加え、活用例を紹介・普及するなどして、より有効に活用されるよう支援していくことが必要である。

一方で、「竹島が日本の領土である理由をわかりやすく説明して欲しい」「韓国の主張にも触

れるべき」といった要望があった。今後、指導者が自信をもって指導することができる客観的な資料の提示や、研修の場の充実を図る必要がある。児童生徒には、我が国の主張と韓国の主張に相違があることも伝え、平和的に解決するための話し合いや、相互理解の大切さについても考えさせていかなければならない。

また、感想の中に児童の韓国への感情の悪化に戸惑ったというものもあった。領土問題は国家間の問題であり、日韓の交流や相互の理解は引き続き推進すべきものである。児童生徒が韓国や韓国の人々に対する偏見をもつことのないよう、日韓の交流についても触れるよう配慮する必要がある。

◎ 各小・中学校における「竹島に関する学習」の実践例

○ 実践例1 海士町立福井小学校の実践

学年・教科 第5学年社会科
実施期日 平成22年1月27日（水）
指導者 藤原 良平
内 容

竹島学習副教材DVDの学習指導案に沿って授業が行われた。

展開⑥の場面で、出てきた意見を「行かないのか」、「行けないのか」の視点で分類して板書することで、韓国との間に竹島をめぐる問題点が存在することを明確にする工夫がなされた。また、「どうして韓国は竹島を領土にしたいのか」を問い、経済水域について振り返ることで、これまでの学習との関連を図る工夫もなされた。

授業を通して、この問題を話し合いにより平和的に解決することが重要であると伝えられた。

児童の感想

- ・択捉島もだったけど、竹島も占領されているから、日本の島だから返してほしいと思った。アワビやサザエがたくさんいるから一度もぐってみたい。
- ・かんこくの人が竹島を自分たちのものにしていて、昔漁に行っていた人が行けなくなっていてかわいそうでした。だから日本人たちで助ければいいと思った。
- ・今でもけいび隊とかに見張りをさせているし、武器を持っていたからこわいなと思いました。だからいつかは竹島が日本のものになって、昔みたいに漁ができるといいと思いました。

○ 実践例2 安来市立広瀬小学校の実践

学年・教科 第5学年社会科
実施期日 平成22年2月12日（金）
指導者 荒川 仁美
内 容 竹島問題を解決するためのよりよいアイデアを考える

児童の発言

- ・日本の竹島だから、日本に返してほしい。勝手に韓国がとったのだから。
- ・返してほしいのは同じだけど、まず話し合いをして、日本のことをわかってもらう。これから仲良くしていきたい。

- ・一方が一方的にほしがるとけんかになる。両国とも理由があるから、お互いの意見を聞いて、両国で使える島として、ハンカチを作ってPRする。(自作のハンカチの絵を見せながら)
- ・お互いの気持ちを伝えるのは、手紙がいいと思う。(考えた手紙文を朗読)
- ・韓国がラインを勝手に引いたのだから日本も勝手に日本のラインを引けばいい。サンフランシスコ平和条約で日本のものと決まっているのだから、日本が勝手にラインを引いてもよい。
- ・日本が勝手に引くのはいけない。日本がいやな気持ちになったように、韓国の人もいやな気持ちになる。仲良くする方がいい。
- ・島を半分にする。日本はいっぱい200海里がある。韓国は、漁場が少ないから分けてあげるとよい。
- ・一方的ではいけないと思えた。
- ・みんなの意見をまとめて、韓国の人に知ってもらい、話し合うといい。そうすれば解決に近づく。
- ・韓国の人にも納得してもらえれば、解決すると思う。

○実践例3 出雲市立伊野小学校の実践

学年・教科 第5学年社会科

実施期日 平成22年2月2日(火)

指導者 福田 秀治

内 容

竹島学習副教材の学習指導案に沿って授業が行われた。

児童の感想

- ・はじめて竹島という名前を聞いた。
- ・たいへんなことになっている。
- ・八幡さんの「もう一度行きたい」という気持ちがわかった。
- ・韓国に取られていて悲しくなった。
- ・竹島に漁にいけなくてかわいそう。
- ・4年生の時に聞いたことがあったけど、今日くわしくわかった。
- ・他の国でも取り合いがあるのかな？そういう戦争になってほしくない。
- ・竹島は日本のものなのに、韓国がとっている。私は竹島には2つの国が行けるようにすればいいと思う。昔、竹島ではアワビやワカメいろいろな種類の貝や魚がとれたけど、今は竹島に行けなくて、はやく竹島をとりもどしたい。

○実践例4 出雲市立平田小学校の実践

学年・教科 第5学年社会科

実施期日 平成22年1月21日(木)・2月22日(月)

指導者 岡 利行

内 容

竹島学習副教材の学習指導案の学習活動の流れを参考に授業が行われた。

12月に事前アンケートを行って児童の実態を把握するとともに、授業の中で竹島の位置を確認する際に活用する等の工夫がなされた。

竹島がどんな島か確かめる場面で、八幡さんのインタビューの「もう一度行きたい」という場面を静止画像で使用し、八幡さんの心情に迫る工夫がなされた。また、児童の集中を高めるために、ワークシートは使用されなかった。

授業に際しては、竹島が日韓どちらのものかを判定するのではなく、なぜ争っているのかを児童に伝えること、韓国側の主張にもふれるようにし、児童が韓国国民への差別意識や偏見をもたないように配慮された。

授業後の振り返りの中で、「興味をもった」「今まで知らなかったけど、島根県にこんな問題があるのだと分かった」「家族とも話し合いたい」「歴史的なことももっと知りたい」などの感想があったこと、児童の自主学習などに、「竹島問題」について調べたり新聞記事の感想などを書いたものがあつたこと等から、2月22日の竹島の日にあわせて「竹島の日 特別授業」が行われた。1月の授業の感想や質問にこたえる対話形式で進められた授業では、外務省発行のパンフレット「竹島問題を理解するための10のポイント」も活用して、歴史的経緯や背景が日韓双方の言い分を交えて紹介され、児童が客観的に考えられるように配慮された。

○ 実践例5 江津市立川波小学校の実践

学年・教科 第6学年社会科

実施期日 平成22年1月22日(金)

指導者 渡部 道孝

内 容

第6学年の我が国の歴史に関する学習の中で行われた。

第5学年時に、かつて学校の近くから韓国へ電話通信のための海底ケーブルがつながっていたことや、第6学年の歴史学習で、日本の文化の形成に影響を与えた朝鮮との交流の歴史等について学んだことを踏まえての実践であった。

授業では、初代総理大臣である伊藤博文と、彼を暗殺した安重根(アンジュンゴン)をとりあげ、韓国併合に関わる韓国の人々の日本への感情が、現在の竹島問題の背景にあることをおさえたうえで、副教材DVDを活用して竹島の様子や竹島問題について確認した。

そして、指導者が作成した日本と韓国との関わりをまとめた年表により、長く深い交流の歴史を再確認した後、児童は竹島問題を解決するにはどうすれば良いかを考え、お互いを尊敬し交流することが大切であることに気づいた。

竹島問題を認識した上で、次単元の「日本と関係の深い国々」—「韓国と日本」を学び、韓国についての深い理解や竹島問題の解決に繋げていくことを意図した実践であった。

また、この授業は授業公開日に行われ、保護者への啓発も意図されていた。

○ 実践例6 出雲市立出雲第一中学校の実践

学年・教科 第1学年社会科 [地理的分野]

実施期日 平成22年2月18日(水)

指導者 大前 裕子、小川 竜也

内 容

竹島学習副教材のDVD等を活用しながら授業が行われた。

竹島の位置の確認は、地図帳を活用し、出雲市との位置関係にも留意しながら行われた。

竹島がどのような島か確認するために、竹島学習副教材DVDの小学校編が活用された。八幡さんがもう一度竹島に行けるかについて予想することで、竹島に領土問題が存在することを確認し、DVD中学校1年生編を視聴して、分かったことや疑問に思ったこと等をワークシートにまとめ、班での話し合いが行われた。その際、1回目の視聴はメモをとらず、2回目はメモをとりながら行われた。

班での話し合いには2種類のカードを利用し、「分かったこと」は白カードに、疑問に思ったことはピンクカードに書かせることで、次の時間の発表につなげる工夫がされた。

竹島に関する学習はチームティーチングを活用し、事前のアンケートを踏まえ、5クラスの実態に応じた展開で行われた。本時は島根県・日本の立場と、韓国の立場の両方から竹島問題を考える授業であった。

◎ おわりに

現在、島根県内の小・中学校ほぼ全ての学校で竹島に関する学習が実施されている。

今後は竹島学習副教材の活用を促すとともに、各学校の児童生徒及び地域の実態を考慮した授業展開や資料の活用の工夫を図り、学習内容に工夫を加え、県内の竹島に関する学習の充実を図っていく必要がある。

そのためにも、授業者である教職員が史料・資料に基づいた事実関係をしっかり理解し、自信をもって授業が行えるようにしていかなければならない。竹島学習副教材に続いて、子ども向けパンフレットの作成が竹島・北方領土返還要求運動島根県民会議の事業として計画されているが、それらを活用した竹島に関する学習の推進が図られるよう、島根県教育委員会では今後も指導していくこととしている。

また、今後全国の小・中学校で竹島についての学習が行われていくこととなるが、島根県内の学習の推進状況を把握し、小・中学校における取組をまとめ、県内外に発信していくことが重要であると考えている。

資料：〔竹島学習副教材DVDを活用した「竹島に関する学習」の指導案例〕

資料1：小学校第5学年 社会科学学習指導案

単元名 「わたしたちの国土」（「北方領土の学習」の後の扱い）

学習指導要領〔第5学年〕内容（1）ーア

- ねらい
- 竹島は島根県の所属の島であること、2月22日は「竹島の日」であることを知る。
 - 昔、漁ができた竹島に、現在は韓国との関係から行くことができなくなっていることを理解する。

	児童の活動	指導上の留意点	DVDの操作と内容
導入 7	<p style="text-align: center;">竹島の位置を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 竹島の位置を地図で調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島の北西の方向にある ・ 韓国からも近い ・ 北緯 37 度 東経 132 度ぐらい ○ 竹島の位置をDVDで確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐島後の北西 157km ・ 島根半島と朝鮮半島からの距離はほぼ同じ ・ 北緯 37 度 14 分 東経 131 度 52 分 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島根県が「竹島の日」を制定していること、また、竹島が島根県の所属の島であることを知らせる。 	<p>【DVD】4分25秒</p> <ul style="list-style-type: none"> = 再生（I オープニング）字幕が入る = 「地図で調べてみましょう。」のナレーションの後、一時停止 = 日本地図で確認後、再生（II島の位置） II-○ 「竹島全景」（写真） 日本地図（掛図・児童用地図帳） II-○ 「緯度・経度の入った地図」 II-○ 「竹島周辺地図」
展開 ① 15	<p style="text-align: center;">竹島はどんな島か確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 竹島はどんな島か、写真から想像する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩でできた島だ ・ 2つの島と小さな岩がある ・ 人が住んでいないみたい ・ 小さな建物が見える ・ 韓国との間で問題になっている島だ ○ 竹島はどんな島か、DVDで確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島から漁に来ていた ・ 昔はアシカ漁をしていた ・ アワビなどを採っていた ・ 島のまわりは魚介類の宝庫だった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静止画を見せることにより、想像しやすくする。 ・ 自由に想像したことを発表させる。 ・ 昔の写真や動画から、昔は漁が盛んであり、島根県と関わりが深かったことに気づかせる。 ・ インタビューから、「もう一度行きたい」という思いにふれさせ、「なぜ今は行けないのか」という次の課題につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> = 「竹島ってどんな島だと思いますか。」のナレーションの後、一時停止 II-○ 「竹島全景」（写真） ワークシート = 想像した後、再生（III島の様子） III-○ 「アシカの様子」（動画） III-○ 「竹島での漁の様子」（写真） III-○ 「八幡さんのインタビュー」（動画）
展開 ② 8	<p style="text-align: center;">現在、竹島で漁ができない理由を話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ なぜ今は竹島で漁ができないのか、予想し発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワカメやアワビを採ることができなくなった ・ 竹島に近づくことができなくなった ・ 韓国との間に問題が起きた ○ 竹島で漁ができない理由をDVDで確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国の李承晩大統領が一方的にラインを引き、韓国の領土にしてしまったから ・ 韓国が警備隊を置いて不法占拠を続けているから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いつかない子どもには、前時の北方領土への日本人の渡航について思い出させ、考えるきっかけとする。 ・ 不法占拠の意味を簡単に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> = 「なぜ今は、竹島で漁ができないのか考えてみましょう。」のナレーションの後、一時停止 ワークシート = ワークシートに記入し話し合った後、再生（IV島に行くことができない理由） IV-○ ナレーションに合わせて、地図中に李承晩ラインが入る IV-○ 竹島で見張りに立つ韓国の警備隊（写真）
まとめ 15	<p style="text-align: center;">今日の授業で感じたことや考えたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の感想を書き、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹島に行けなくなってから50年以上もたっているんだ ・ その間、日本はどうしたのかな ・ 日本と韓国で話し合い、いっしょに漁をすればいいのに ・ 竹島についてもっと知りたい ・ これから竹島はどうなっていくのかな ○ ナレーションを聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済や漁業の問題にとどまらず、子どもの様々な思いを引き出し、竹島（問題）への関心を高める。 ・ 竹島領土問題を解決するためには、みんながこの問題に関心をもち、解決に向けての考えをもつことが大切であることを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> = 「学習の感想を書き、発表しましょう。」のナレーションの後、一時停止 ワークシート = 発表後、再生（Vエンディング） 2つのナレーションが入る

小学校第5学年社会科ワークシート「わたしたちの国土」

年 組 氏名 _____

- 竹島はどんな島か、写真から想像して書こう。

- なぜ今は竹島で漁ができないのか、予想して書こう。

- 学習の感想を書こう。

資料 2 : 中学校第 1 学年 社会科学学習指導案 (第 1 時)

単元名 「わが国の国土～わたしたちと竹島～」

学習指導要領〔地理的分野〕内容(2)ーア

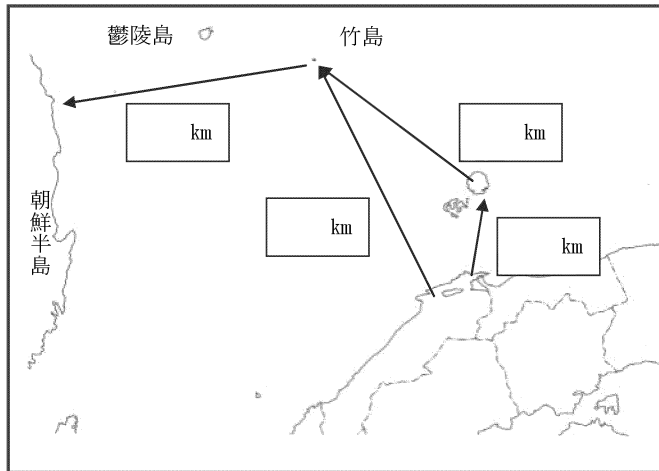
ねらい ○ 竹島に関する出来事を確認することを通して、竹島領土問題について自分の考えをもつ。

	生徒の活動	指導上の留意点	資料等
導入	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">竹島について知っていることを確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 竹島について知っていることを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島の北西にある ・ 昔、アシカがすんでいた ・ 昔、アワビなどを採りに行っていた ・ 韓国との間に領土問題がある ○ 竹島の位置、住所を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐島後の北西157km ・ 鬱陵島の東南東92km ・ 島根半島と朝鮮半島からの距離はほぼ同じ ・ 「島根県隠岐郡隠岐の島町竹島官有無番地」が住所だ ○ 昔の漁業の様子を写真等で確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アワビやワカメを採っている ・ 雇われた海女は朝鮮の人だった ・ 明治中期から昭和初期まで漁をしていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校での学習を想起させ、竹島についてのイメージをもたせる。 ・ 思い出せない場合は、小学校用のDVDを視聴する。 ・ 島根半島と朝鮮半島からの距離がほぼ同じであることを地図の上からも実感させたい。 ・ 地図帳で国境線や鬱陵島の位置にも着目させる。 ・ 場所、住所を確認しワークシートに書き込むようにする。 ・ 昔は漁業のために渡っていた島であることを確認する。 	<p>【CD資料】</p> <p>必要に応じて本時で活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹島古地図 ・ 竹島・鬱陵島を描いた絵地図 ・ 竹島に渡る漁民(写真) ・ 漁をする人々(集合写真) ・ 1905年の告示 ・ 小学校用DVD ワークシート
展開	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">竹島領土問題に関わる出来事を確認しよう。(DVD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DVDを視聴し、分かったことなどをワークシートにまとめ、発表する。 ・ 1905年には、日本政府は竹島を島根県に編入して、竹島を領有する意思を再確認した ・ 1951年に結ばれたサンフランシスコ平和条約で、竹島は日本の領土であることが確認された ・ 1952年、サンフランシスコ平和条約発効直前に、韓国が李承晩ラインを引き、竹島を取り込み、警備隊を置くなどして、日本船を近づけないようにした ・ 1953年には、海上保安庁の巡視船が銃撃される ・ 日本は、国際司法裁判所に提訴しようとしているが、韓国は応じてくれない ・ 暫定水域内での漁業における日本と韓国の規制のあり方が違うため、資源の枯渇など様々な問題が起きている ・ 1987年には、島根県は竹島の返還を求め県民会議を立ち上げた ・ 2005年には、「竹島の日」条例を制定した ・ 日韓の研究者の交流が実現しつつある ・ 島根県の「竹島の日」条例制定後、日韓双方の世論が高まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ DVDは、2回視聴させる。1回視聴させ、見終わった後に分かったことなどを書かせる。2回目は、その他の気づいたことについてメモをとりながらDVDを見るようにする。 ・ それぞれの出来事で感じたこと、思ったことを加えながら発表するよう促す。 ・ DVDにおいて使われている専門的な用語については、適宜補足説明をする。 ・ 生徒の発言を板書する際には出来事を時系列に整理し、竹島をめぐるこれまでの動きが分かるようにする。 	<p>【DVD】</p> <p>7分05秒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DVD ワークシート
まとめ	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">今日の授業で感じたことや考えたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感じたこと、考えたことをワークシートにまとめる。 ・ 李承晩ラインが竹島領土問題の始まりだ ・ 竹島の返還を求めて島根県が条例を制定した理由がわかった ・ 日本人が昔のように竹島に自由に行けるようになるよ ・ 日本人も韓国人も竹島に行けるようになるよ ・ 話し合いに応じてくれるにはどうしたらよいのだろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の意識を2時間目につなげるため、感じたこと、考えたことをワークシートにまとめさせ、次時の導入で発表できるようにする。 	<p>ワークシート</p>

第1学年 地理的分野「わが国の国土～わたしたちと竹島～」ワークシート（第1時）

1年__組 氏名_____

1 竹島の位置を確認しよう。



位置 緯度 _____ ・ 経度 _____

住所 _____

2 DVDを視聴して、分かったこと、感じたこと、思ったことを書こう。

【分かったこと、感じたこと、思ったこと】	【メモ】

3 今日の授業で感じたことや考えたことをまとめよう。

--

資料3：中学校第1学年 社会科学学習指導案（第2時）

ねらい ○ 竹島領土問題の課題を踏まえ、その解決に向けてどうすればよいか考える。

	生徒の活動	指導上の留意点	資料等
導入 10	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">竹島領土問題の現状と課題を整理しよう。</p> <p>○ 前時の学習で、ワークシートにまとめた「感じたことや考えたこと」を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 李承晩ラインが竹島領土問題の始まりだ ・ 韓国は、竹島を不法占拠している ・ 韓国は、話し合いに応じていない ・ 竹島の返還を求めて島根県が条例を制定するの分かる ・ 竹島は日本のものだ ・ 日本人が昔のように竹島に自由に行けるようになるよ ・ 日本人も韓国人も竹島に行けるようになるよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の意見を板書する際には「分かったこと」「疑問に思ったこと」「領土に対する考え」などに分類・整理する。 ・ 「分かったこと」や「疑問に思ったこと」について教師の準備した資料をもとに確認させ、問題意識を高める。 	<p>【CD資料】</p> <p>必要に応じて本時で活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1905年の告示 ・ 李承晩ラインの地図 ・ サンフランシスコ平和条約第二章等 <p>・ 年表（第1時の展開をもとに作成）</p> <p>・ 第1時のワークシート</p>
展開 30	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">竹島領土問題を解決するためにどうすればよいか話し合おう。</p> <p>○ 竹島領土問題を解決するために、どうすればよいか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの人々に竹島について関心をもってもらう ・ 歴史的にみて、1905年以前は、竹島はどこの国の領土だったのか調べる ・ 日本の主張と韓国の主張を比べながら考えていく必要がある ・ 政府の人に、韓国と話し合うようにお願いしなくては ・ 日本人みんなで署名運動をして韓国にお願いする ・ 本当はどちらの国の領土なのか、日本と韓国が一緒に研究する ・ 韓国と正式に話し合う、きちっとした話し合いの場をつくっていく必要がある ・ アメリカに仲立ちをしてもらい、韓国と話し合いの場をもつ ・ 相互理解のために、民間交流や研究交流をやるべきだ ・ 領土問題にもっと関心をもっていかなければならない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹島をめぐる事実関係をもとにして、まず、自分の考えをワークシートに書かせ、話し合いに臨ませる。 ・ それぞれの考えは、誰が行うことなのか「自分たち」「島根県」「日本」「韓国」などに分類して板書し考える上での一助とする。 ・ 意見が出にくい場合には、グループ討議なども適宜取り入れる。 	<p>ワークシート</p>
まとめ 10	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">2時間の学習をふりかえって、感じたこと考えたことをまとめよう。</p> <p>○ 2時間の学習をふりかえり、感じたことや考えたことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹島のことについてもっと勉強しなくては ・ 島根県では、竹島領土問題に対してどんな活動をしているのかももっと知らなくては ・ 韓国の人ともっと仲良くしなくては ・ 解決に向けて、自分たちも何かできることを探さなければ ・ 早く領土問題が解決するといいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで書いてきたワークシートをもとに、2時間の学習を振り返らせ、自分の考えを整理させることで竹島領土問題への関心と解決に向けての意欲を高める。 	<p>ワークシート</p>

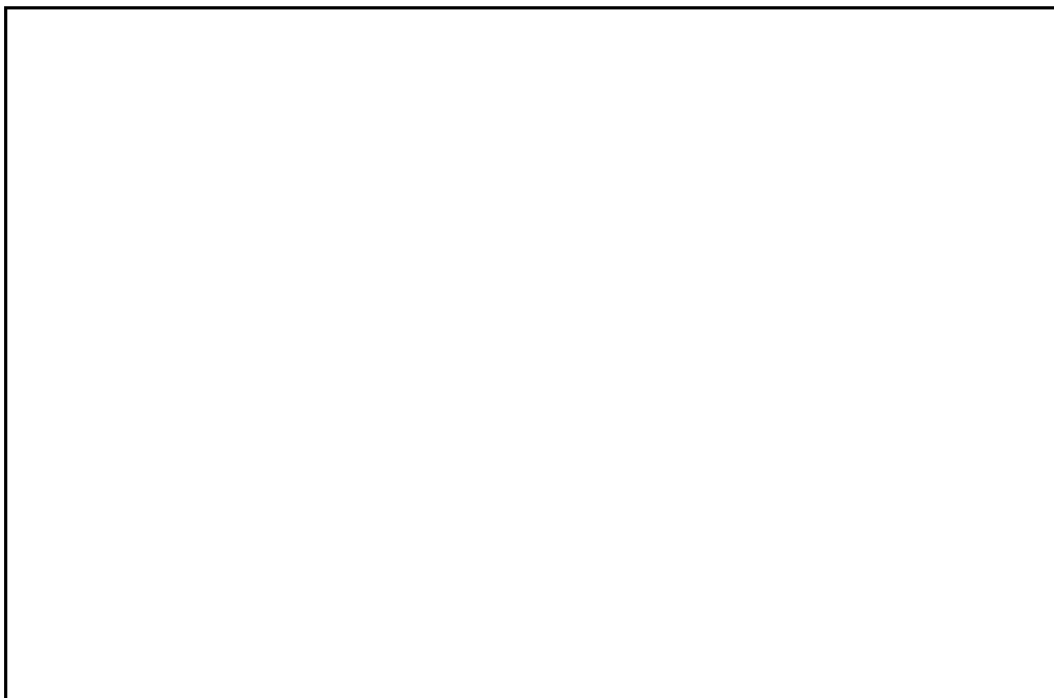
第1学年 地理的分野「わが国の国土～わたしたちと竹島～」ワークシート（第2時）

1年__組 氏名_____

1 竹島領土問題の解決に向けて、自分の考えを書こう。



2 2時間の竹島学習の授業をふりかえって、考えたこと、感想などを書こう。



資料4：中学校第2学年 社会科学学習指導案

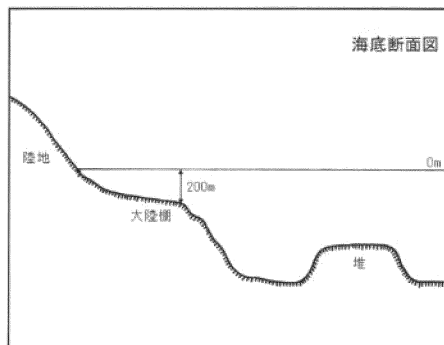
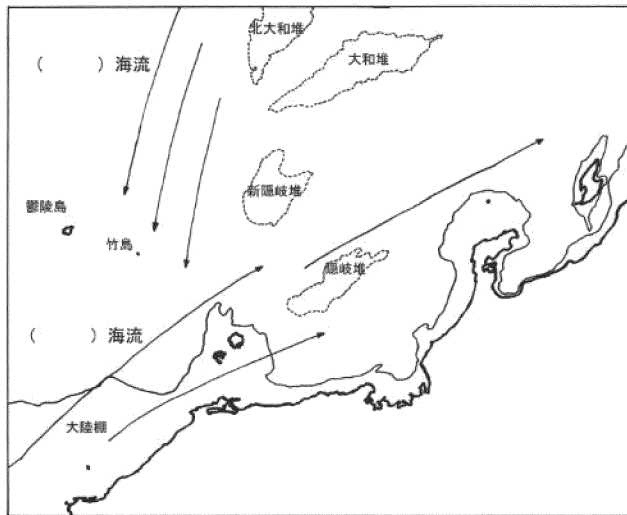
単元名 「山陰沖・隠岐島周辺の水産業」学習指導要領〔地理的分野〕内容（2）－ウ
ねらい ○ 竹島周辺の日本海における水産業の現状と問題点がわかり、どのように解決すればよいか考える。

	生徒の活動	指導上の留意点	資料等
導入 5	<p>地図帳を見て山陰沖・隠岐島周辺の海域はどんな特色があるか話し合おう。</p> <p>○ 山陰沖・隠岐島周辺の海域の特色を発表する。 ・暖流の対馬海流と寒流のリマン海流がぶつかる潮目があるのでよく魚がとれる ・隠岐島周辺から山陰沖、朝鮮半島にかけて広い大陸棚があるので好漁場だ ・大陸棚ではないが、比較的浅い海底が何カ所かある</p>	<p>・前時（日本の水産業）の学習から、山陰沖・隠岐島周辺の海域は、好漁場であることに気づかせる。 ・堆については展開で扱うが、意見が出た場合には、簡潔に説明する。</p>	<p>地図帳</p>
展開① 20	<p>現在の山陰沖・隠岐島周辺の水産業の様子はどんな状況か話し合おう。</p> <p>○ DVDを視聴し、山陰沖・隠岐島周辺の漁場としての特徴を確かめる。 ・暖流、寒流、潮目、大陸棚、堆があって好漁場だ ・底引き漁、巻き網漁、カゴ漁、イカ漁の沖合漁業が行われている</p> <p>○ DVDを視聴し、暫定水域が設定された理由を発表する。 ・竹島領土問題未解決のため、EEZの境界が引けなかった ・どちらの国のものとも決めない海域をつくることに新日韓漁業協定で合意した</p> <p>○ 暫定水域の漁場の問題点を発表する。 ・ベニズワイガニの漁獲量が減少している ・日韓の漁業規制が異なる ・竹島周辺12海里に日本は近づけない</p>	<p>・堆について説明し、漁場の好条件に加える。 ・暫定水域設定の理由を整理し、竹島領土問題の未解決が現在の水産業に影響していることに気づかせる。 ・暫定水域での問題点をまとめ、現状では、日本の水産業にとって不利であること、水産資源が枯渇する恐れがあることを理解させる。</p>	<p>【DVD】 4分48秒 ⇒再生 ⇒「水産資源を保護しながら、水産業を行うようになりまし た。」の後、一時 停止 DVD ワークシート ⇒発表した後、 再生</p>
展開② 10	<p>暫定水域内の水産資源の現状と漁業のルールについて確かめよう。</p> <p>○ カニの甲幅の資料からわかることを発表する。 ・甲幅が90mmより大きいカニはすごく少ない ・暫定水域内は大きなカニが少ない</p> <p>○ 日韓の漁業規制の違いの資料からどんなことがわかるか発表する。 ・期間、カゴ数などほとんどの項目で日本の規制のほうが厳しい</p>	<p>・暫定水域内では大きなカニが少なくなっているという意見が出ない場合は、教師がふれ、その理由について考えさせる。 ・日本と韓国で漁業規制に違いがあることは、日本にとって不利であることを理解させる。 ・日本が厳しい漁業規制を守ろうとしているのはなぜかと問い、その理由を考えさせる。</p>	<p>CD資料:「暫定水域におけるズワイガニの甲幅の比較」 ワークシート CD資料:「日本と韓国の漁業規制の比較」 ワークシート</p>
まとめ 15	<p>山陰沖・隠岐島周辺の豊かな海を守るために、この問題をどう解決したらよいか話し合おう。</p> <p>○ 豊かな海を守るためにどうしたらよいかワークシートに自分の考えを記入し、発表し合おう。 ・韓国漁船の規制をもっと行うべきだ ・漁業交渉でしっかり話し合うべきだ ・水産資源を守るルールを統一すべきだ ・日本の資源保護の実績を韓国にもっとアピールすべきだ ・暫定水域をなくして、境界線を設けるべきだ ・竹島領土問題の解決が漁業問題も解決する ・竹島領土問題を解決する必要がある</p>	<p>・出た意見を、次の3つに分類し板書する。 (1)「日韓の合意を進めて共通のルールで資源保護を行う」 (2)「暫定水域をなくして日韓が独自のルールで資源保護を行う」 (3)「その他」 どれがよりよい方法かということには深入りしない。 ・問題解決に向けた日韓の努力の様子を紹介し、資源確保に真剣に取り組まれてきていることを理解させる。 ・水産業の問題解決にも、竹島領土問題の解決が大きく関わっている話をしてまとめとする。</p>	<p>ワークシート CD資料:「合意が遵守された例」</p>

第2学年 地理的分野「山陰沖・隠岐島周辺の水産業」ワークシート

2年__組 氏名_____

1. 山陰沖・隠岐島周辺の漁場



2. 暫定水域

㉟ 「暫定水域」がつけられた理由を書こう。

㊿ 「暫定水域」ではどんな問題があるか箇条書きにしよう。

- ・
- ・
- ・
- ・

㊿ 「カニの甲幅」のグラフからわかることを書こう。

㊿ 「日韓漁業規制の違い」の表からわかることを書こう。

3. 「暫定水域」を含めた山陰沖・隠岐島周辺の豊かな海を、将来にわたって守るにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめよう。